

皇太子(中)皇國防思想普及費増徴方(案)スル件

陸軍省訓官 楠 淵 鎮 一 殿

昭和十二年八月三十日 留守第十一師團參謀

陸軍省 12.9.2 727

陸軍

昭和十二年八月三十日

留守第十一師團參謀

陸軍砲兵中佐 大坪 一馬

陸軍省訓官 楠 淵 鎮 一 殿

重傷 仕候時下残者尙凌ぎ難く御座候處時局多端の折柄貴殿益々御
清武の殿奉太寶候就而斯る事申上候て誠に恐れ入り候へ共第三期(自九月
至十一月間)國防思想普及費の事に關し少々御願有之候實は動員下
令後に於ける第十一師管下の各種團體及一般民衆の國防思想熱は一
般に盛にして良好の狀態に有之候も山室師團出動直後に於ける上海
附近の上陸作戰の結果豫期に反し多數將兵の損害特に下坂師團參謀
以下多數將校の壯烈なる戦死は四圍一般民衆に一大衝動を與へたる
ものゝ如き狀態に有之候就而此際多數將兵の損害特に第一線師團參
謀の犠牲をして最も有意義あらしむる爲四圍内各種團體は固より一
般民衆に對して大々的且計畫的に國防思想の普及徹底を圖る如く指
導致し以て出征師團に對する統後の守を堅く致し度き所存に有之候

1632

第三二號

開誠に恐れ入り候へ共第三期國防思想普及業務費令達の際例年の金額に若干の金額を増加令達下されば誠に幸ひかと存し候特に四國は他地方に比し交通不便なるを以て交通の爲多額の經費を要すべく候間特別の御詮議御願慮の上實現方願上候
先は右御願まで如斯御座候

敬 具

1634

女青布帛一解
 陸軍省自官度
 高級別及格
 親書
 親展
 一
 〇

1635

留守第十一師團參謀大坪一馬